

平成30年度の活動報告



水防災意識社会
再構築ビジョン

平成30年度の活動報告

■本協議会における各種会議の開催(1/3)

平成30年度は、首長会議(大阪府、京都府域ごとに1回)、行政ワーキンググループ(大阪府、京都府域ごとに2回)、ブロック別会議(ブロック毎に1回)、を開催しました。
各構成機関より活動報告および活動予定等について報告が行われ、取組状況の共有を行いました。
また、平成29年台風21号等を踏まえた大規模氾濫への備えに関する今後の方向性を確認しました。

会議名	実施回数	開催時期
首長会議	2回	平成30年 5月29日(火) 平成30年 5月31日(木)

平成30年度 淀川管内水害に強い地域づくり協議会 京都府域 首長会議

日 時：平成30年5月29日(火)
15時00分～16時30分
場 所：京都烏丸コンベンションホール 大ホール

議 事 次 第

1. 開 会
2. 議 題
 - 1) 淀川管内水害に強い地域づくり協議会の活動内容について
 - ・協議会の概要
 - ・平成29年度の活動報告及び平成30年度の活動予定
 - 2) 水防災意識社会再構築ビジョンに基づく取組みについて
 - ・市町等における取組状況の発表
 - 3) 平成29年台風21号について
 - ・出水報告 他
 - 4) その他
3. 閉 会

議事次第
出席者名簿
配 席 図
資料-1 : 淀川管内水害に強い地域づくり協議会について
資料-2 : 平成29年度の活動報告及び平成30年度の活動予定
資料-3 : 市町等の取組状況について
資料-4 : 平成29年10月台風21号と前線による出水報告
資料-5 : 台風21号を踏まえた大規模氾濫への備え(重点項目)
参考資料



京都府域 (5/29)



大阪府域 (5/31)

首長会議

■本協議会における各種会議の開催(2/3)

「水防災意識社会再構築ビジョン」の取組の進捗状況の報告や取組を推進する上での意見交換を行いました。

また、平成29年台風21号を踏まえた課題と対応についての意見交換や平成30年7月豪雨の概要、ハザードマップの周知等の取り組み事例について事務局より説明を行いました。

会議名	実施回数	開催時期
行政ワーキング会議	2回	平成30年 5月15日(火) 平成30年 8月29日(水)

平成30年度 淀川管内水害に強い地域づくり協議会 第1回行政ワーキンググループ (大阪府域)

日 時：平成30年5月15日(火) 10時より
場 所：中央流域センター 2階 会議室

議 事 次 第

1. 開 会
2. 行政ワーキンググループ
 - 1) 淀川管内水害に強い地域づくり協議会について
 - ・協議会の概要
 - ・平成29年度の活動内容及び平成30年度の活動予定
 - 2) 取組方針の進捗について
 - ・水防災意識社会再構築ビジョンに基づく取組状況
 - 3) 平成29年台風21号について
 - ・出水報告
 - ・課題と対応 他
 - 4) その他
 - ・避難に関する情報提供(水害リスク)
 - ・首長会議の開催に向けて
3. 閉 会



京都府域



大阪府域

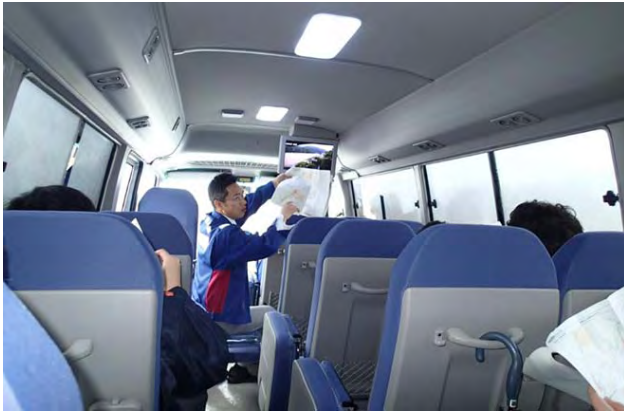
行政ワーキング会議

平成30年度の活動報告

■本協議会における各種会議の開催(3/3)

危険箇所を市町防災担当と共有することを目的に現地見学を実施し、浸水深図や破堤点ごとの浸水区域図を用いて堤防決壊時の浸水形態について事務局より説明しました。

また、水ビジョンの進捗状況を共有し、令和元年度以降の実施スケジュール案の内容確認を行いました。

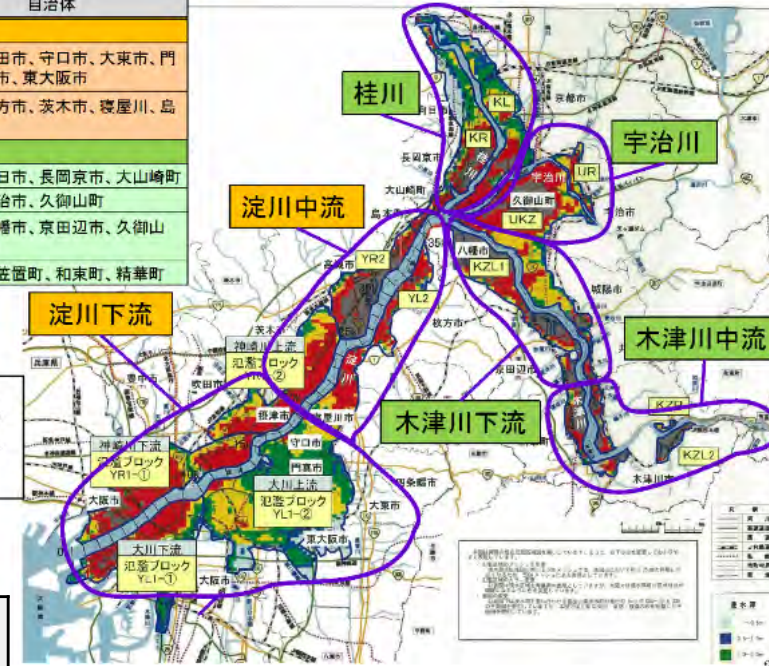


ブロック別会議



ブロック区分	自治体
<大阪府域>	
淀川下流	大阪市、吹田市、守口市、大東市、門真市、摂津市、東大阪市
淀川中流	高槻市、枚方市、茨木市、寝屋川、島本町
<京都府域>	
桂川	京都市、向日市、長岡京市、大山崎町
宇治川	京都市、宇治市、久御山町
木津川下流	城陽市、八幡市、京田辺市、久御山町、井手町
木津川中流	木津川市、笠置町、和束町、精華町

- 河川毎に、類似する氾濫区域を基本としてブロックを区分



会議名	実施回数	開催時期
ブロック別会議	6回	平成31年 2月22日(金)
		平成31年 2月25日(月)
		平成31年 2月26日(火)
		平成31年 2月27日(水)
		平成31年 2月28日(木)
		平成31年 3月1日(金)

平成30年度の活動報告

■まるごとまちごとハザードマップの実施

地域で想定される浸水深を示した標識を設置し、住民による「水害リスクの把握」や「水害時の安全な避難の実現」を目的とし、まるごとまちごとハザードマップを整備しました。平成30年度は、新規が10市町において45箇所、「想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域図」の公表(H29.6)に伴う更新が8市町において49箇所、合計94箇所の洪水標識を設置しました。

平成30年度に設置した洪水標識一覧

市町名	設置箇所数	設置場所	内訳
門真市	新規 3	建物	3
井手町	新規 13	建物	3
		電柱	10
笠置町	新規 3	建物	3
八幡市	新規 10	建物	10
精華町	新規 2	建物	2
吹田市	新規 3	電柱	3
宇治市	新規 4	建物	2
		電柱	2
枚方市	更新 2	電柱	2
	新規 4	建物	2
		電柱	2
大阪市	新規 1	建物	1
寝屋川市	新規 2	建物	2
長岡京市	更新 2	建物	2
木津川市	更新 22	建物	6
		電柱	16
大山崎町	更新 8	建物	6
城陽市	更新 3	建物	3
京田辺市	更新 3	建物	3
久御山町	更新 6	建物	6
摂津市	更新 3	建物	3

●新規設置状況



説明板



水位表示板

八幡市:有都小学校



一体型

門真市:北巣本小学校

●更新設置状況



更新前



更新後



更新前



更新後

長岡京市:スポーツセンター

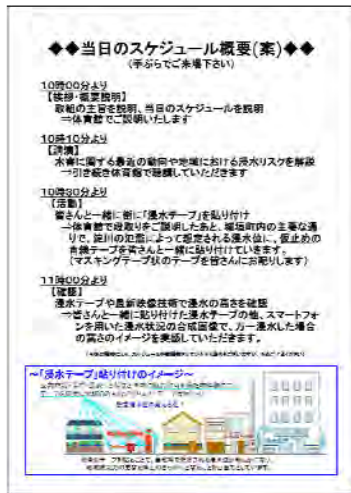
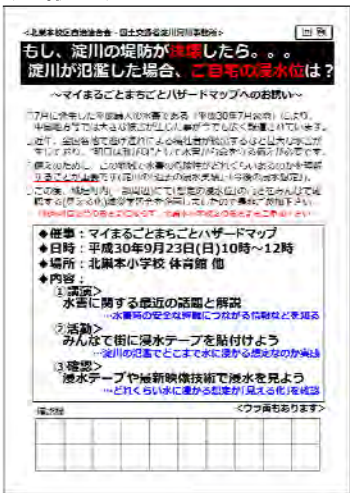
※設置箇所数は、設置した説明板・水位表示板の数
設置場所内訳は、建物と電柱の区分

■ 発展型まるごとまちごとハザードマップの実施(1/2)

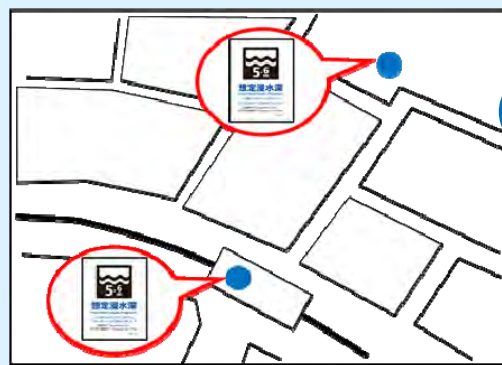
より多くの住民の防災意識の啓発・向上につなげるため、まるまちHMの有効活用として「想定浸水位の見える化」を図り、想定される浸水位の高さを住民自身がまちなかにテープにより線状に示すイベントを実施しました。

イベントではテープを1週間存置しましたが、一部の場所では要望により恒久的な浸水位テープを設置することとなりました。

広報チラシ



イベントイメージ



浸水位の点状設置



浸水位の線状設置

① 開催地域	・ 門真市城垣町
② 開催時期・期間	・ 平成30年9月23日(日) 10時～12時 ※青色テープは1週間存置
③ 地域一体となるための方策	・ イベントの趣旨・内容等を表示したノボリを作成し、浸水域の境界や人通りの多い歩道など要所に設置して、住民や周辺地域からの注目度の向上を図る
④ 実施効果の把握	・ イベント実施の効果把握のため、イベント前後における対象地区住民へのアンケート調査を実施 ・ 「自宅の想定浸水深」や「水害時の避難行動に対する認識」の変化について、得られた回答をもとに整理・分析

■ 発展型まるごとまちごとハザードマップの実施(2/2)

● 水害に関する講演



● 浸水位の高さへテープ貼り付け



● まとめの会



実施効果を把握するためのアンケート調査

門真市北巣本校区における防災情報の取得実態や、水害(浸水)に対する防災意識の他、地域における災害への備えや地域との関わりに関する調査を実施し、有効な防災・減災の施策展開に資することを目的にアンケート調査を実施しました。

対象は、門真市北須本小学校区の住民2,427世帯とし、平成30年10月に調査票の配布、回収を行いました。(回収率17.3%)

アンケートの結果、イベントの実施を知らず、青テープも見たことがない人が約4割を占めていました。

しかし、青テープを見たことがある人は、約9割が「防災意識が向上したと思う」と回答しており、イベント実施の効果が現れています。

【発展】恒久的な浸水位テープの設置

北巣本小学校からの要望により、周辺のフェンスに浸水位の位置へ恒久的な素材のテープを設置



施工イメージ



平成30年度の活動報告

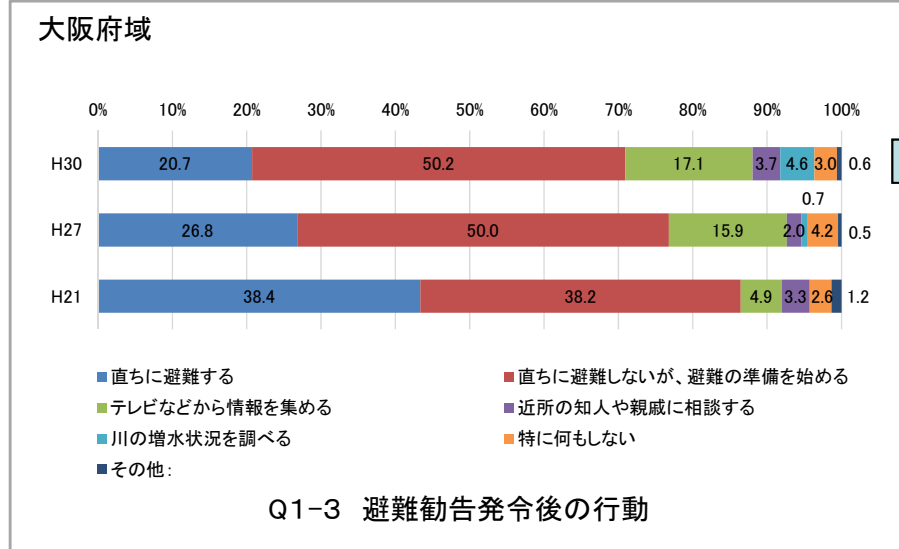
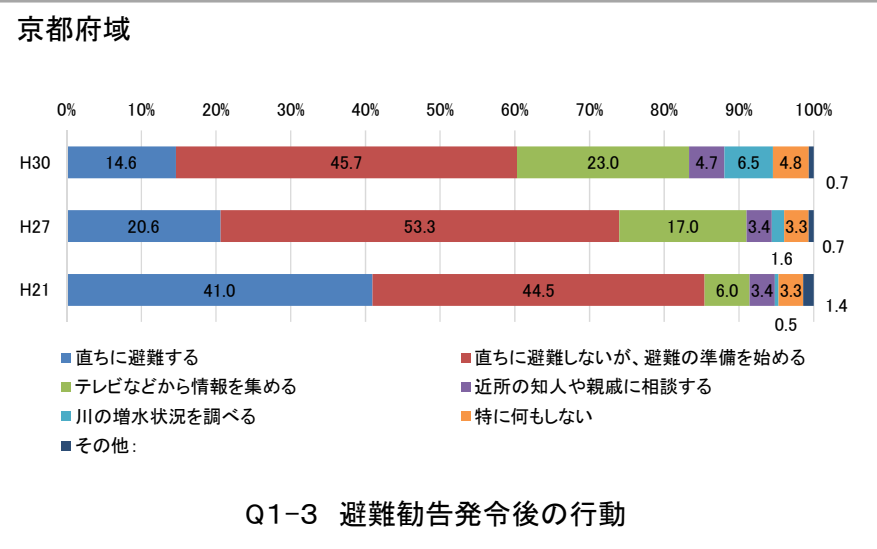
WEBアンケートの実施

想定最大規模降雨による洪水浸水想定区域内において水害に関する住民意識や意向を把握し、過年度調査結果(平成21、27年度調査結果)と比較することで、住民意識の経年変化を分析するため、WEBアンケートを実施しました。

アンケート回答からは、「直ちに避難する」方が減少するという結果が得られました。その要因としては、近年頻繁に発令される避難勧告等への「慣れ」による危機意識の低下が考えられます。

その一方で、防災情報や避難場所の認知度は向上する傾向にあることから、避難に関する様々な情報が避難行動を起こすための判断基準に繋がっていない状況がうかがえます。

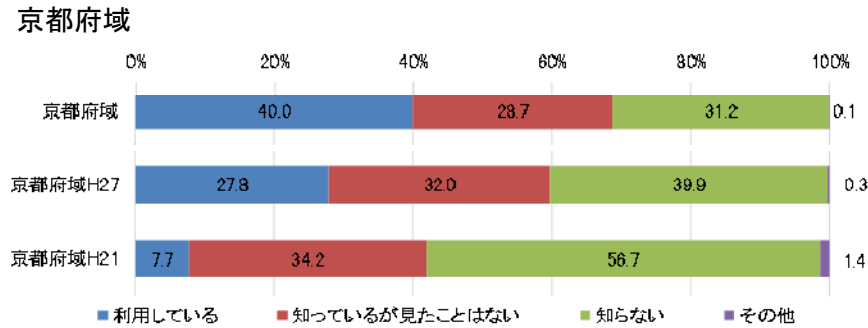
時期	サンプル数	アンケート項目
平成31年 1月22日(火)～1月28日(月)	京都府域 1,373票 大阪府域 1,919票	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 情報入手方法・適切な避難行動の実現について ◆ 防災教育や防災知識の普及について ◆ 避難行動について ◆ 地域で防災力を高める場合必要と考える施策について ◆ 情報発信について ◆ 避難に必要な情報について ◆ 自助・共助について



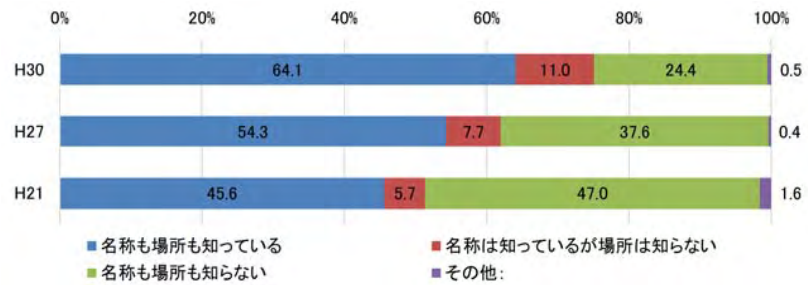
考察

「直ちに避難する」は減少している：近年頻繁に発令される避難勧告等への慣れによる危機意識の低下が考えられる。

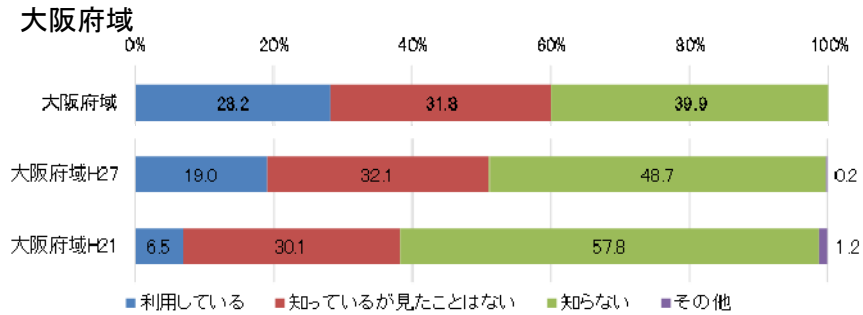
WEBアンケートの実施



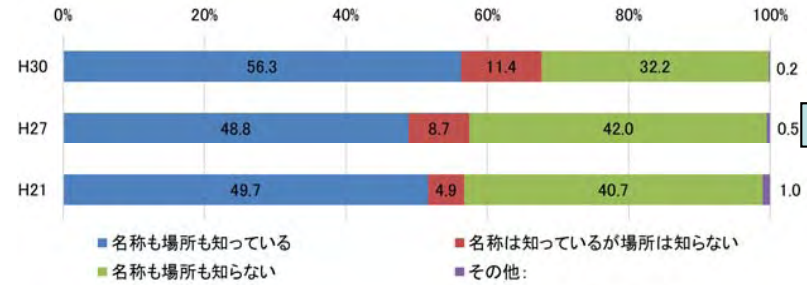
Q2-1 国土交通省や府が提供している防災情報



Q2-2避難場所の認知度



Q2-1 国土交通省や府が提供している防災情報



Q2-2避難場所の認知度

考察

• 防災情報の認識(認知度)は向上している: 携帯電話(特にスマートフォン)の普及等の影響により、防災情報への認識が向上していると考えられる。

• 避難場所の認知度は向上している: ハザードマップをはじめとした防災マップの普及等の影響により、「名前も場所も知っている」が増加し、「名称も場所も知らない」が減少していると考えられる。

■講演会の実施

「もし大水害が迫ったら、大切な地域を守れますか？」と題して、気象キャスターネットワーク事務局長等を招いて、淀川管内で活動されている住民を対象とした講演会を開催しました。

時期	場所	内容
平成31年 3月2日(土)	TKP京都駅前 カンファレンス センター ホール3A	講演1: 天気はこう読む 岩屋忠幸氏(気象キャスターネットワーク 副代表理事事務局長) 講演2: 鬼怒川決壊時の自主防活動 須賀英雄氏(茨城県常総市中妻町 根新田町内会事務局長)

水防災意識社会
再構築ビジョン

主催: 淀川管内水害に強い地域づくり勉強会
日時: 平成31年3月2日(土)15時~17時
会場: TKP京都駅前カンファレンスセンター

もし大水害が迫ったら、大切な地域を守れますか?

地域で防災減災を考えていらっしゃる皆様へ向けて、
・テレビで活躍されている気象キャスターから、
天気の仕組みや天気予報の読み方を分かりやすく教えていただきます
・鬼怒川氾濫の大規模水害に遭った自主防災組織の方から、
リアルな水害現場最前線の活動実績や体験談をお話しいたします
逃げ遅れゼロのまちづくりに向けて、一緒に考えてみませんか

逃げ遅れゼロのまち

◆日時・会場

平成31年3月2日(土) 15:00~17:00

TKP京都駅前カンファレンスセンター ホール3A

京都市下京区真宇屋町195(烏丸七条交差点) 福井ビル3F
会場へは公共交通機関をご利用下さい

参加無料
できるだけ事前
申し込み下さい



◆講演 地域で防災活動に取り組む皆様向けの講演です

【講演1】 天気はこう読む

～めまぐるしい昨今の天候について、分かりやすく解説します～

岩谷 忠幸氏 気象キャスターネットワーク 副代表理事 事務局長
元日本テレビ気象キャスター・気象予報士・防災士

情報バラエティ番組「スッキリ!!」(日本テレビ系)、ニュース番組「FNNスーパーニュース WEEKEND」(フジテレビ系)等にて、気象キャスターとして分かりやすく天気を解説

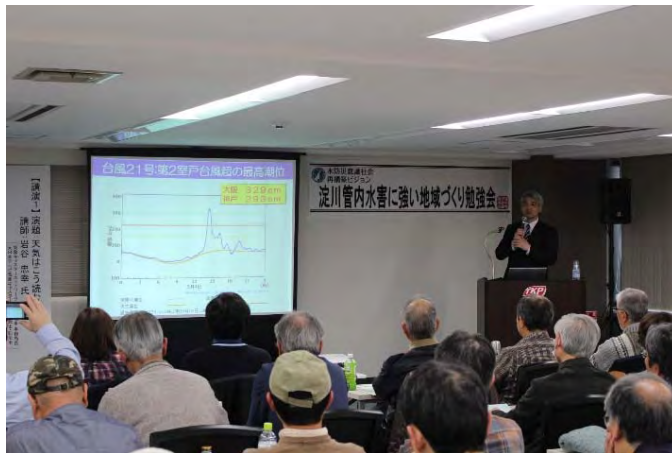


【講演2】 鬼怒川決壊時の自主防活動

～災害時に活躍した平時の取組、想定できない災害現場最前線の体験談～

須賀 英雄氏 茨城県常総市中妻町 根新田町内会 事務局長
茨城県常総市防災士連絡協議会 事務局長・防災士

3年前に記録的な豪雨となった1平成27年9月関東・東北豪雨による鬼怒川堤防決壊の大規模氾濫で地域が浸水したが、事前の独自の取組みにより大幅に浸水を免れた功績者



講演状況



VR体験コーナー

会場では浸水想定をVRゴーグルで上空からご覧頂ける体験コーナーを設けます!!



【日 時】 平成31年3月2日(土) 15時~17時
【場 所】 TKP京都駅前カンファレンスセンター ホール3A
【場 員】 定員100席(当日参加も可能ですが、席に限りがございますので、事前のお申込みをお願いいたします。<後面参照>)
【主 催】 淀川管内水害に強い地域づくり協議会
(事務局: 国土交通省 淀川河川事務所)
【問合せ】 国土交通省 淀川河川事務所 調査課 TEL072-843-2861

■要配慮者利用施設における避難確保計画作成の支援

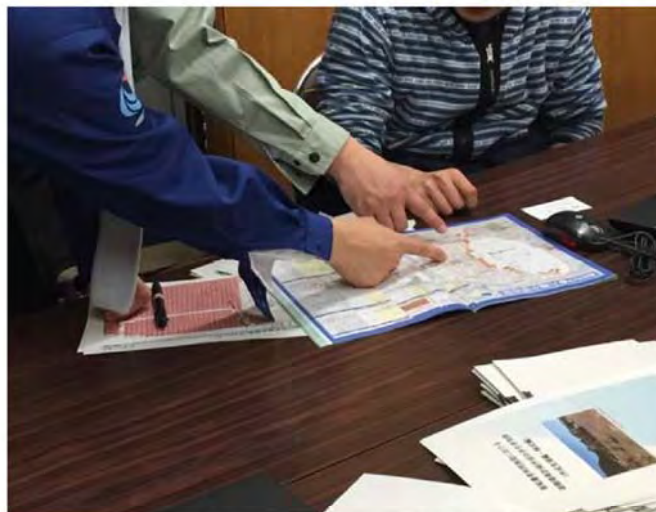
本協議会では、大規模氾濫の備えのうち「要配慮者利用施設における避難確保計画作成」を重点項目として各地で促進しています。

淀川河川事務所と八幡市が連携して各施設を支援したことで、八幡市内の全ての要配慮者利用施設で避難確保計画作成が達成できました。(京都府内の市町村では八幡市が初の「作成率100%」※)

※平成30年3月末時点の作成状況に対する八幡市内の作成状況



支援内容の一例



河川事務所は「浸水リスク」、市役所は「避難場所」として役割を分担し、施設の計画作成を支援しました



施設への支援は、説明会形式ではなく確実に計画書が仕上がるよう施設の計画作成状況の熟度に応じて、講習会形式や個別形式で支援しました